



河合克平 議員

児童生徒に一番良い学校を問う

**問** 愛西市小中学校適正規模等検討協議会の検討の進捗と10月、11月に行われた地域懇談会の主な意見について聞く。

**教育部長** 3回の協議会の内容は、協議会の運営及び小・中学校適正規模等に関する事、地域懇談会の開催方法などについて協議を行っている。懇談会では、「将来、学校の統廃合は必要だ」「学区の編成、通学路の問題を検討してほしい」「少人数による弊害が大きい」「専門的に検討し、一番いい方法を示してほしい」「小規模校なりのよさはある。現状維持がよい」「幅広い世代より意見を聞き、アンケートも実施してほしい」などの意見があった。

**問** 市として、統廃合を進めるといふ、行政改革の考え方があるか。

**企画部長** 適正化の方針は統廃合だけではない。協議会で検討されているので、結果を市長部局は待っている状況だ。

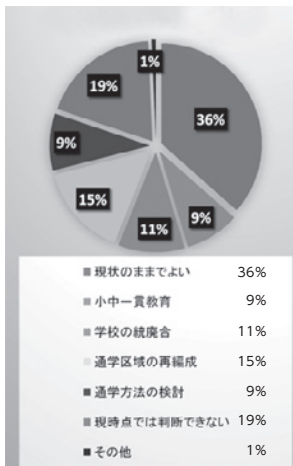
**問** 学校施設などについての統廃合の検討は公共施設等管理計画の中でも行っていくのか。

**総務部長** 評価において、低いものを直ちに統廃合へ分類していない。関連計画による方針や政策的判断を加え総合的な評価に基づき、施設の方向性を整理していく。

**問** 適正化のため、基本方針の中では、①通学区域の再編②学校の統廃合③通学方法の検討④小中学校の一貫教育、以上4点で進めようとしていくが、まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランという国が決めたプランの中で、小・中学校の適正規模などの検討をするに当たっての手引書には、小規模な学校のメリットを大きくして、デメリットを小さくし、小規模校を残すことも方法として示されている。どう考えるのか。

**教育部長** 国の出したまち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランと愛西市の基本方針については、ほぼ同時に完成している。協議会においても小規模校のメリットを最大限に生かしていくことも検討しなければならないと考える。

市内PTA役員アンケート結果



鷲野聰明 議員

学力向上に向けた分析と対応策は

**問** 愛西市が市民の生命と財産を守りながら、住みよく、また継続的な発展を目指していくには、財産健全化と子どもたちの学力向上が重要な課題である。「愛知の小学校国語低迷」と大きく新聞紙上で取り上げられているが、市の小・中学校の学科別学力水準はどのようになっているのか。また、全国学力テスト結果分析と対応策、総括は。

**教育部長** 市の子どもたちの過去3年間における平均正答率の推移を見ると、全体的に上昇の傾向。小・中学校においては、平成25年度には国・県ともに下回っていたものがあつたが、現在はおおむね全国と県の平均正答率の間に位置している。

**教育部長** 学力向上のためにいくつもの取り組みを進めて、除々に成果が上がりがつつある。さらなる指導の充実と学習の改善により、市の児童・生徒の学力を向上させて、その成果に胸を張れるように努力をしていきたい。